

朝まで機青連<1 回目>

9 月 25 日 於 Zoom
株式会社サカテック 坂下 浩一

去る 9 月 25 日に 40 周年記念事業の第一弾となる、朝まで機青連 1 回目を ZOOM で開催いたしました。40 周年記念事業では「Establish our vision ～道しるべとしての機青連とは～」というテーマを掲げ、機青連活動の意義を再確認し、次なる機青連へと発展していくための事業作りに邁進しております。本来であれば対面での開催としたかったのですが、緊急事態宣言期間中ということで今回の ZOOM 開催に至りました。



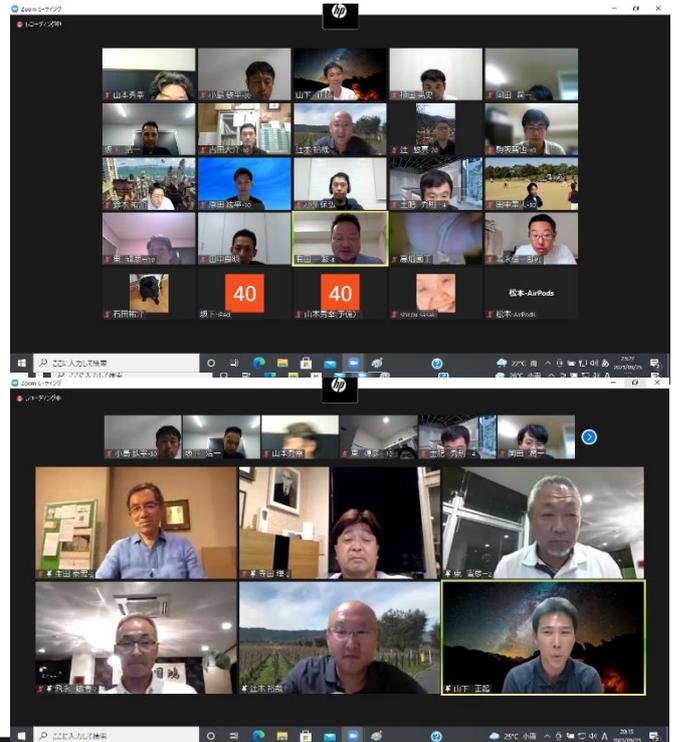
今回の朝まで機青連では、機青連は何のために存在しているのかを歴史を紐解きながら、この先の機青連と機青連で学ぶ若手経営者の在り方を探求するという目的で開催しました。その設えとして、歴代代表幹事にお集まりいただき、過去行ってきた事業の経緯や機青連活動での苦労話や思い出話などを座談会形式でお話して頂く事となりました。ZOOM 開催にも関わらず、来賓の岡本様、森西様、中村顧問、歴代の代表幹事 15 名を含め、総勢 55 名の皆さまにお集まりいただき、大変有意義なお話を伺う事ができました。



中村顧問の乾杯の御発声に始まり、京都産業 21 の岡本専務理事と森西様からは、機青連発足前後のお話とご自身が機青連と共に歩んでこられた歴史をたくさんのエピソードを交えながらお話しいただきました。お二方とも機青連に対する思いがとても強く、溢れんばかりの熱量で機青連について熱く語って頂きました。



その後、座談会へと移りまして、歴代代表幹事の皆様には世代別に4グループに分かれていただき、座談会を行いました。各ターンの冒頭に若手メンバー3名に登壇いただき、「自身は何のために機青連をしているのか?」というテーマの基、率直な気持ちでお話しいただきました。そして1ターン目に秋田先輩、松岡先輩、衣川先輩、川並先輩、2ターン目に生田先輩、寺田先輩、東先輩、飛永先輩、3ターン目に辻先輩、江森先輩、名高先輩、恩田先輩、4ターン目に有田先輩、土肥先輩、中本先輩にご登壇いただきました。ファシリテーターを山下実行委員長が務め、辻本代表幹事も全グループの座談会に登壇されました。



山下実行委員長が各世代に対して質問を投げかけ、それにお答えいただく形で座談会が進みました。皆様、機青連に対しては並々ならぬ思いを持っていらして、機青連と共に青春があるようなそんな感じに見受けられました。また色々なエピソードをお話し頂く内に、思い出話に花が咲き登壇者同士の同窓会が繰り広げられているかのようで、見ているこちらまで和やかな気分になりました。そして各世代の座談会全てに共通して感じたのは、歴代代表幹事の皆様は本当に仲が良く楽しくされているという事です。孤独になりがちな経営者ですが、機青連にいたおかげで支え合える仲間に出会えたことがとても大きいのだと感じます。もし機青連に入っていなかったら今の自分はないと断言する歴代代表幹事の方もいらっしゃいました。そして各事業に対する思いや経営上の苦勞など、経験されてきた出来事は並大抵の事ではないにも関わらず、とても生き生きとされており、若手のこちらが逆に元気を頂けるようでした。そして各ターンの最後に必ず「何のために機青連をされていた?」という質問を投げかけたのですが、「全然仕事が出来なかったあの人がこれだけ成長したか!という実感が持てるから」「世の為人の為と思ってやっている」「縦と横のつながりを大きくできた」など様々なお返答を頂き、自分も何のために機青連をしているのかと考えるいい機会を頂いたと思っております。

座談会終了後に中村顧問に総括して頂き、閉会したのちに若手による本事業を通しての感想を1人ずつに発表して頂きました。「先輩の熱量がすごい。今の世代との違いは何だろうか。」「先輩は素でいるだけですがすごい。自分もあんな風になりたい。」「今までしてないことをやってこそその機青連の意味があると感じた」など、様々

座談会終了後に中村顧問に総括して頂き、閉会したのちに若手による本事業を通しての感想を1人ずつに発表して頂きました。「先輩の熱量がすごい。今の世代との違いは何だろうか。」「先輩は素でいるだけですがすごい。自分もあんな風になりたい。」「今までしてないことをやってこそその機青連の意味があると感じた」など、様々

なご感想を頂きました。色んな思いをお持ちになりながら、中村文昭様講演会で「何のために」の深掘り、そして 2 回目の朝まで機青連へと繋いで行きたいと思います。

今回初めて朝まで機青連を完全リモートで行い、対面でないと絶対に議論は深まらないだろうと思っていましたが、この状況でも出来る事は最大限にあるという事に気付くことができました。2 回目の朝まで機青連では是非とも対面での開催を実現させ、より活発な議論を行っていきたいと思います。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。